

2023
特選

金融広報中央
委員会会長賞

第56回「おかねの作文」コンクール

通帳が気づかせてくれたこと

東京都・白百合学園中学校 1年 猪ノ口 里菜

夏休みのお盆に千葉県のお祖母の家を訪ねた。暑い日だったが、二人揃って笑顔で迎えてくれた。元気そうなお祖母に会えてとても嬉しい気持ちになった。みんなでゲームをして楽しんでいると、私と弟が勝ったタイミングで、お祖父がごほうびのお小遣いをくれた。弟は飛び跳ねて喜び、私もお祖母が自分たちのために準備してくれていたのだと思うと、心が温かくなった。いつか大事に使いたいと思い、郵便局（ゆうちょ銀行）に貯金することに決めた。

翌日、母が近所の郵便局で、現金を私の口座に振り込んでくれた。その後、母から通帳を見せてもらった。普段はあまり通帳を見ていなかったが、残高は20万円を超えていた。「塵も積もれば山となる」ということわざの通り、思ったより貯まっていることに驚いた。まじまじと通帳の履歴を確認すると、毎年、母がお年玉やお小遣いを貯金してくれていたことが分かった。ふと、利息がいくらついているのかが気になり、ページをめくったが、どのページを見ても利息として振り込まれているお金は見当たらなかった。父に理由を尋ねると、「日本の金利は低いからね」という答えが返ってきた。利息とは、預貯金に対し、金融機関が対価を支払うもので、銀行などが決めた「金利」に基づいて利息が支払われるということだった。郵便局の金利を自分で調べてみると、0.001%だった。計算すると、10万円を預けて1年でようやく1円の利息がつくことになる。20万円ある私の通帳にはなぜ1円の利息もついていないのだろうか。私は疑問に思い郵便局の窓口に向かった。私の通帳を確認して下さった局員の方のお話によると、年に2回、利息のチャンスがあり、日割計算を使って利息が元金に加えられるとのことだった。入金時期が関係するため、すぐに利息が付くわけではないようだ。このまま預けると、10月1日に1円か2円入ることが分かった。利息の説明に納得したものの、これなら家でお手伝いをして、母からお小遣いをもらった方が早いというのが正直な感想だ。もしかすると別の銀行に預

けたら利息が高いのかもしれないと考えたが、どこもさほど大差はなかった。

日本の銀行などの金利は世界的にはかなり低い。ネットニュースを調べると、「ゼロ金利」と書いてある記事がいくつもあった。日本では、この「ゼロ金利」の状態が10年以上続いている。金利を決めているのは日本銀行だ。今年4月に新たに植田和男総裁が就任したが、長引く不景気対策として金融緩和という政策を続けている。たくさん紙幣を刷って景気を回復させたいようだ。お金を借りる際の金利が低いため、お金を借りやすい状況を作っている反面、私が郵便局にお金を預けていてもそう増えないことが分かった。

では、自分のお金を増やすにはどうしたらいいのか、そんな疑問がわいた。まじめに貯金を続けるしかないのかとも思ったが、一昨年父の仕事の関係で住んでいたニューヨークから帰国した時のことを思い出した。お財布のドルを円に換えた際、円安の影響でかなり得をしたのだ。渡米した2019年から2021年の間に一時1ドル102円台まで円高が進んだが、最近は145円程まで上がっている。ドルが2、3年で約1.4倍の価値になったとも言える。0.001%とは大違いだ。ただ、今は円安が続いている。自分の貯金を高いドルに換えれば逆に損をしてしまう。

それからニュースを見る度に為替のレートが気になるようになった。日本の金利が低いことと、アメリカが利上げをしていることで、資金がドルに流れ、円が安くなっているという背景があるという。海外の金利を調べると、アメリカやヨーロッパの中央銀行は、去年から今年にかけて金利を大きく引き上げた。コロナ禍から回復したことやウクライナ戦争の影響を受けて物価が大きく上がり、インフレを抑えるために金利を上げているそうだ。市場にお金が溢れ過ぎないように金利を上げて、企業や人々がお金をたくさん使いにくい状態を作ろうとしているのだ。

最近は日本でも物価が高くなっている。ガソリンはこの夏、1L180円を超えた。電気代も上がっている。スーパーに行くと、卵やパン、牛乳や肉など生活必需品が高くなった。そして、賃金も少しずつ上がってきている。物価と賃金が上がれば、日本銀行も金利を上げる可能性があるのではないか。自分のお小遣いを預けている郵便局が、世界情勢や日本経済に大きく左右されていることに気づき、お金が少し身近な存在になった。大切な人からもらったお小遣い、

これから働いて得ることになる賃金をどう増やしていくべきなのか、大人になる前に自分なりに勉強していきたいと思った。

